

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870103151		
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム風花		
事業所名	グループホーム 風花		
所在地	松山市来住町1057-1	(電話) 089-990-3377	
管理者	長岡 すみ子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 3 月 19 日	評価確定日	平成 20 年 4 月 14 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 2 月 29 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 15.2 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 2 月 29 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	1 名	要介護 2	3 名
要介護 3	6 名	要介護 4	4 名
要介護 5	4 名	要支援 2	名
年齢	平均 83.3 歳	最低 61 歳	最高 95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に位置する2階建のホームである。ホームの周りには心休まるオブジェや花壇等があり、またホーム内は明るく優しい雰囲気、ゆったりとした空間となっている。職員は、利用者の「言葉」から希望や思いをくみ取って支援し、共に過ごす中で利用者から菜園作り、料理、育児等で学ぶことが多いと感じている。また、ホームの理念を実践に繋げる過程や、同じ建物内にある事業所(デイサービス等)も参加してのケア向上委員会等で、常にサービスの質向上を図っている。地域とは相互の行事に参加し合う関係にあり、災害時にも地域の自主防災会の協

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)

前回の評価後、自己評価を中心に改善に取り組んでいる。手すりを確認し、必要な所に追加設置したり、ホーム内の気になる匂いには対策を徹底して換気等に注意するなど、改善に努めている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

運営者、管理者、職員は評価の意義を理解し、職員参加で自己評価を行っている。職員は自己評価を行うことで、日々の支援の振り返りができ、向上心への刺激になっていると捉えている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)

会議はホームの概要・実状報告、医療への対応、認知症・成年後見制度等についての学習などを取り上げて開催しており、会議を通してホームへの理解が深まっている。会議を通じて、地元の方々が利用者のための安全標識を立ててくれたり、雑草を刈ってくれるなど、協力体制ができてきており、ホームのサービス向上に繋がっている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)

家族の意見等は、来訪時・家族会や運営推進会議開催時などに把握し、ホームの運営に反映している。家族から利用者の安全を考え玄関に施錠を…との意見が寄せられたが、話し合いを行い、施錠せずセンサーを設置することで解決している。苦情相談窓口は内部、外部に分けて文書に明記し、家族に説明している。

▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

利用者は地域の夏祭り、盆踊り、運動会、老人会等に出かけ、地域の方はホームの行事に気軽に参加してくれる等交流が進んでいる。地元の方は利用者の外出等への気遣いから標識を立てたり、雑草を刈ってくれて「何でもしますよ」とホームに声をかけ、温かく見守ってくれている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム 風花

(ユニット名)

風

記入者(管理者)

氏名

長岡 すみ子

評価完了日

平成 19 年 2 月 26 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 一年に一度、理念の見直しを行っている。地域密着型サービスとして、利用者がより良く暮せる為、利用者の思いや姿が反映出来る理念を職員全員で作り上げている。 (外部評価) 職員全員で話し合っつくりあげた、身近で分かりやすい理念である。利用者が自分らしく暮らせるよう支援することを念頭に、地域との付き合いを大切にしたい理念で、各ユニットの廊下に掲げている。	※	常に理念を意識し、より一歩でも理念に近づける為出勤時には職員全員が読み上げていく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 常に理念を意識し、より一歩でも近づける様、職員は出勤時に読み上げしたり、ミーティング時に振り返りを行っている。 (外部評価) 職員は出勤時に理念を読み上げたり、ミーティング時のふりかえりの視点とする等、常に理念を意識した支援をしている。日々のケアで悩んだりする時は、理念に立ちかえって判断し、実践に繋げるよう心がけている。	※	職員全員が理念を理解し、その実践に向け取り組んでいく。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族会や地域運営推進会議にて説明し、理解と協力をお願いしている。		地域の人々に理解して頂けるように地域風花便りに載せる等していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣近所の方とお会いした時は必ず挨拶を交わす。利用者や回覧板を回したり、公民館に地域風花便りを貼っている。しかし、日常的な関わりは薄い。	※	近隣への散歩や買い物を通して気軽に挨拶を交わし、またおしゃべりの場を増やし顔見知りを増やしていく。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の催し物へ参加している。また運動会や夏祭り、敬老会には地域の方を招いて行い、交流の場を持っている。 (外部評価) 利用者は地域の夏祭り、盆踊り、運動会、老人会等に出かけ、地域の方はホームの行事に参加してくれる等交流が進んでいる。地元の方は利用者の外出等への気遣いから安全標識を立てたり、雑草を刈ってくれて「何でもしますよ」とホームに声をかけ、温かく見守ってくれている。	※	老人会(寿会)に参加して地域との交流を深めていく。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域運営推進会議を通してグループホームを理解してもらいながら、必要に応じて相談にのっている。	※	地域運営推進会議では話題になるが、今後地域にグループホームがどう関わられるのかを検討する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価・自己反省を常に意識しながら、外部からの適切な評価・視点を今後のグループホームの運営に生かせるものと受け止め、改善に取り組んでいる。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を理解し、職員参加で自己評価を行っている。職員は自己評価が日頃の支援の振り返り、向上心への刺激になると考えている。前回の評価後、自己評価を中心に改善に取り組み、手すりを必要箇所を設置したり、気になる臭いは根源対策に気をつけ換気等に配慮するなど、改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回異なった議題のもと、グループホーム・認知症の理解を伝えると共に、参加者からの意見やアドバイスは真摯に受け止め、サービス向上に努めている。 (外部評価) 会議はホームの概要・実状報告、医療への対処、認知症・成年後見制度等の学習会などを議題として開催しており、会議を通してホームへの理解が深まっている。会議がきっかけで地域の方が玄関先に安全標識を立ててくれたり雑草を刈ってくれる等、会議がサービス向上に繋がっている。ホームから地域に向けて発信しているホーム便りも有効に活用している。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターの開催するセミナーや勉強会に参加している。 (外部評価) 利用者の終末期への対応等について市担当者に相談したり、生活保護の手続きで担当課を訪ねたり、市の依頼で実習を引き受けたり、運営者が市の研修講師を務める等、市との行き来は日常的に行われている。	※	一人でも多くの職員が参加出来るようにしていく。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議にて市職員から成年後見制度について学んだが必要な支援が出来ていない。社内研修でコンプライアンスルールを作成し、ルールに沿った支援が出来るように取り組んでいる。	※	成年後見人制度が必要な家族への説明・支援が出来る。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングで虐待の内容について学び、職員一人一人が虐待についての意識を高く持ち、虐待を起こさず、また見過ごすことがないよう防止に努めている。	※	コンプライアンスルールを作成し、特に言葉の暴力や拘束ゼロに向けて努める。利用者一人ひとりへの日常の関わりを見直していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングを月1回実施している。運営理念の説明を入社時に管理者より行うが、意見や提案を聞くまでには至っていない。	※	介護理念を職員全員で考え、意見を述べながらひとつにまとめ作り上げている。具体的に1日1日取り組み、成果を評価し、明日へつなげている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に応じ、その都度柔軟に調整している。	※	職員を確保する為に調整は行っているが、人員不足もあり各職員に無理がかかっている。今後は職員育成マニュアルに従い新人職員の育成を計り、利用者に影響が及ばないよう配慮する。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者への影響を第一に考え、移動は最低限としている。 (外部評価) 運営者は、利用者が馴染みの関係の中で支援が受けられるよう、職員の異動を最小限にしている。異動時は利用者の「言葉」や「動き」から各自の思いを知り、ダメージを少なくするよう努めている。	※	各ユニットで経験出来ていない職員も多いため、必要に応じ相互研修していく。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各種勉強会や研修等に職員全員が参加出来る機会を設けている。勤務期間3ヶ月以内で新人研修を行ったり、認知症に関する勉強会等を行いながら、より一層の質の向上を目指している。 (外部評価) 運営者は職員の教育がサービスの質向上や意欲につながると考え、機会毎の学習に力を入れている。職員が外部研修に参加した時は報告書を提出し、他の職員にも伝達している。内部での学習は、月1回のミーティング、同法人他事業所も参加してのケア向上委員会等で行っている。	※	セミナーへの参加を積極的に呼びかけていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 関連ホームでの交換研修を行い交流を深めたり、年に1回相互評価事業に参加し、サービスの質の向上を図っている。見学・研修・実習等の受け入れも行っている。		
			(外部評価) 他のホームと相互研修会や交流会を持ち、学んだことをサービスの質向上に活かしている。ホームは他ホームからのリーダー研修の実習をはじめ、多くの見学・研修を引き受けている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ストレスを抱えている職員も多く、個々に話を聞いたり、時にアドバイスしている。	※	休憩がとれる勤務体制を整えてゆく為に、安定した職員の確保に努めていく。記録にかかる時間を見直す。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 定期的に個人面談があり、相談したりアドバイスがもらえる。		向上心を持って働き続ける為に、いつでも気軽に話せ、実績・努力も評価出来る場面を作っていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談から利用に至るまでに、本人または家族に出来る限りではあるが聞き取りをしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 自宅に訪問し生活環境を確認しながら、家族や本人の希望等聞き取れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けながら本人の意向も含め、グループホームが適しているのかの検討を行い、他サービスの説明も行っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 初期段階で出来る限り家族に来院して頂き、まず安心を得たうえで職員や利用者との馴染めるような環境を作ったり、グループホームでのデイやショートを利用しながら徐々に馴染めるように工夫している。 (外部評価) 運営者や管理者が入居前に自宅や入院先を訪ねて利用者や顔見知りになったり、前もって同じ建物内のデイサービス等を利用してもらったり、ホームを事前見学してもらった等で馴染めるよう工夫している。入居後も、家族の来院時に一緒に過ごしてもらってホームの雰囲気に慣れるようにするなど配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 出来る限り一緒に過ごし、本人との会話の中でいろいろな思いを引き出しながら、安心してもらえるように努めている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者の思いを把握し、希望が叶うよう支援している。碁を打ちたい方にはボランティアに相手を依頼し、利用者が収穫した野菜を販売できるよう農協に依頼したり、共にギター演奏を楽しむなどしている。職員は日々の暮らしの中で利用者から調理法、菜園作り、育児等で学ぶことが多いと考えている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時は利用者の近況や様子・状態を伝えたり、意見を仰いだり、要望をたずねている。	※	希薄になっている家族との関係をもう一度見直し、家族への状態報告も含め、こまめな関わりを深めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族より聞き取りをする。家族の思いと、利用者の思いがお互いに分かり合えるよう橋渡しをしている。	※	風花便りや手紙・経過記録等、毎月送付している。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人・場所の聞き取りが十分でなく、支援もあまり出来ていない。	※	家族・本人より聞き取りを行う。また日々の会話の中に出てくる人名・地名を記録し、支援につなげていく。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 日々の生活・関わりの中から関係性の把握に努める。またその関係性を大切にしながら食事時・くつろぎタイム時は時に見守ったり、仲立ちしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要とする家族・利用者が今現在までにいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の5つの視点を使い、本人の言葉や表情・思いをくみ取りながら把握に努めている。 (外部評価) 職員は利用者との会話・言葉から一人ひとりの思いや希望等を把握している。また、ケアを行う上での大切な5つの視点を参考に、利用者の意向を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時また入居後、必要に応じ生活歴・生活環境・サービスの利用内容を家族、介護支援専門員を通し聞き取り出来ている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個人別記録・排泄チェック表・申し送りノート等の記録の活用を通して総合的に把握している。	※	1日1日の気づきや反省も記録に残しながら振り返る機会を持ち、次のウィックリーアクションプランやケアプランの実践へつなげていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式を活用し、利用者の立場・視点・思いに立った計画の作成をチームとして作り上げている。家族へは必ず説明し、意見やアドバイスを仰いでいる。 (外部評価) 利用者毎に担当の職員を決め、担当者を中心に、他の職員も参加してセンター方式で介護計画を立てている。利用者や家族の思いや希望を反映した介護計画となるよう心がけ、計画作成後は家族来訪時等にサインを得ている。	※	利用者の声・思いをもっと聞き取り、具体的にケアに生かしていく。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3か月毎に見直しを行っている。また心身の変化・状態の変化に応じ柔軟に適時見直しを行っている。その場合、家族へは事後報告になっている。 (外部評価) 介護計画は毎日のケアと関連づけながら1週間毎・1か月毎にチェックし、必要時には計画の見直しを行っている。また、利用者の状況が変化した場合はその都度見直している。週や月単位でのチェックで変化がなくても、3か月毎に計画を更新している。	※	家族に相談・報告を行い、計画見直しの際は速やかに伝える。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別記録の記入は出来ているが、気づきや工夫が少ない。	※	日々の気づきや反省もこまめに記録に残すと共に、職員間で情報交換を行いながら見直しに生かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 居宅介護や入浴・福祉用具等同事業所にあり、利用者・家族のその時々要望に応じ支援できている。 (外部評価) 利用者や家族の状況に合わせて、急な受診・法事や結婚式への出席・墓参り・外泊・家族のホームへの宿泊等の柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議をきっかけに地域住民・町内会・民生委員等協力体制を整え、協働している。	※	今以上に地域との関係を深めながら、利用者一人ひとりのニーズに合わせ、生活の幅を広げていく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今のところ、特に必要性がない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在行っていない。	※	本人のニーズに応える為調査を行ない、それをもとに地域運営推進会議などを通し、地域資源を取り入れたケアマネジメントを協働出来るようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望にそいながら、月2回かかりつけ医の往診がある。24時間体制で連絡をとり、相談したり必要な支援を受けている。 (外部評価) 利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の受診支援を行っている。受診で家族が付き添えない時は、同じ建物内のデイサービスの利用者と一緒に受診する等の支援をしている。かかりつけ医による往診も月2回行われている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医ではないが認知症に対して理解の深い医師と連携している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 月4回ほのか看護師の往診があり、個々の健康管理を行いながら、利用者との関係も深められている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した際は入院中の状態確認、また必要な支援を行っている。また病院主治医・かかりつけ医・訪問看護師・家族とケアカンファレンスを行いながら、早期退院に向け取り組んでいる。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時、看取りにおける方針を話し同意してもらいながら、重度化した時は本人・家族・医師・看護師と話し合い方針を決めてゆく。 (外部評価) ホームでの重度化や終末期の対応は可能であり、早い時期から利用者、家族、職員、医師等と話し合っている。看取りのマニュアルがあり、重度化や終末期は家族・職員・医師・訪問看護ステーション等で連携して支援することになっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 今後起こりうるリスクやレベルの低下に伴い、必要な利用者の家族へは医師も交え話し合いの場を持っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 実例がない。	※	本人も交えしっかり話し合い、情報交換しながら住み替えによるダメージが軽減出来るように努める。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) コンプライアンスルールに従い、丁寧な言葉かけや対応を心がけている。FAX送信の際等は個人名を伏字にしている。 (外部評価) 利用者との会話や支援場面でも丁寧に接し、地域に発信するホーム便りに掲載する写真は利用者の後姿にする等、一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に支援をしている。記録類や書類の記載・保管は事務室で行い、個人情報の保護に努めている。	※	コンプライアンスルールを作成しているがまだ実践出来ていない部分を見直し、プライバシー確保の徹底を計る。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 選択できる場面や、自己決定出来るよう相談したり、希望を聞く場面を持っている。	※	働きかけや声かけが十分でない為に思いにしっかり耳を傾ける姿勢を持ち、同調する気持ちを大切にしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースや思いをくみ取る声かけや場面作りをしている。個々のペースが違う為、それらに合わせた柔軟な対応が出来ていない。 (外部評価) 食事時間にソファで眠っている方には目覚めてから食べてもらう等、職員は利用者のペースを大切に支援を行っている。利用者の言葉、生活歴、職歴等からその日をどう過ごしたいかを聞いたり察知して、趣味・外出等の支援をしている。	※	一人ひとりとゆっくりと向かい合い、思いや希望を聞きだす場面をより多く持ち、職員間で話し合い支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 職員が決めた衣類を着てもらうことが多い。整容を自分で楽しむ利用者は見守り、出来ない利用者には声かけしたり、時に介助している。	※	本人の好み(色やデザイン)の聞き取り、自己決定出来る声かけをする。家族の協力のもと、衣類の補充を行う。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) レベルの低下に伴い、準備・片付けは出来ていない。食事は必ず利用者にとれてるが、楽しみにはつながっていない。 (外部評価) 利用者の希望を献立に取り入れ、自然食材での食事を提供し、一人ひとりの力量に合った支援をし、食卓に花を飾り、食事しながら会話を交わす等、食事を楽しめるよう努めている。ご飯は食べられる量だけ各自がよそうなどしている。	※	準備や片付けは一緒に出来ない決め付けず、声かけをしながら共に行ってみる。食卓の配置を変えたり、座る場所を変えたりしながら楽しい雰囲気を作っていく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物・おやつの好みを聞き、支援できている。状況に合わせて家族に依頼したり、職員が購入している。お酒・タバコはすすめていない。	※	おやつ・飲み物の種類を増やし、好みの幅を増やしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個々の排泄パターン・リズムを日々チェックし、それらに応じ声かけ・トイレ誘導を行っている。コストも考えながら、おむつ使用時も適時声かけし誘導している。	※	失敗や理解が難しい利用者にはタイミング良く声かけし・トイレ誘導し、必要に応じ陰洗やおむつ交換を行い、気持ちよく過ごせるよう配慮する。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 天候や体調、また食事時間や観たいテレビの都合に応じ柔軟な声かけをしているが、職員の都合・タイミングで入浴している利用者もいる。 (外部評価) 9時～21時の間で、利用者が希望する時間に入浴できるようになっている。浴室は手すり、滑り止め、バスボード等の安全設備があり、浴槽の湯は利用者毎に入れ替えている。入浴者がいない時は防災用の水を浴槽に貯めている。ホームの浴室で入浴できない場合は、同じ建物内のデイサービスの機械浴を利用している。	※	入浴が楽しめるよう、季節にしょうぶ湯やゆず湯を行なう。時には香りの良い入浴剤等も入れてみる。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は利用者に合わせている。休息は日当たりのいい席をすすめたり、時に自室やフリースに誘導し休んでもいただく。タオルケットをかける等、体温調節に気をつけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家事は得意ごとにタオルたたみ・食器拭き等分担して行っている。また、新聞取り・見回り点検・他者への気遣い等、個々の役割も生かしている。 (外部評価) タオルたたみ、食器拭き、菜園づくり、ホームの犬の餌やり、活け花、パッチワーク、読書、俳句、ギター演奏、レクリエーション等の利用者の役割や楽しみごとを支援している。	※	一人ひとりが役割・楽しみ・気晴らしが出来ているかどうかアセスメントしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理出来る利用者には適時補充している。支払い(計算)出来ない利用者には手助けしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天候や体調に配慮しながら希望を聞いているが、個々の思いの達成は出来ていない。食材の買出し・移動パン屋の利用は出来ている。 (外部評価) 1週間に1～2回は食材の買い物でスーパーに行ったり、近くのコンビニ等へ出かけている。店員とも顔なじみになり、買い物の楽しさを味わっている。また、利用者の希望でお花見に出かけたり、神社にお参りに行ったり、地域の行事に参加したりしている。	※	一人ひとりの希望に添い、周辺の散歩・ゴミ捨て・野菜収穫・花摘み等、戸外へ出る機会を持つ。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の協力のもと、墓参りや温泉等出かける機会を作っている。個別に希望があれば、月に1度程度ではあるが外出支援している。	※	一人ひとりの希望を聞き取り、家族の協力を得ながら外出支援する。(外食・コンサート)
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があった時にのみ、手紙の代筆や電話をかけている。	※	職員が必要に応じ家族や知人に電話出来るよう声かけ支援していく。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 来所時は挨拶を交わし、利用者に代わって近況を伝えている。お茶やおやつを出し、居心地良く過ごせるようにしている。現状では家族・親類以外の来所はほとんどない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての勉強会を行い、意味を把握し、危険が及ばない程度に見守り、危ないと感じる時は理由を伝え、気分を害さないよう工夫しながら関わっている。	※	定期的に振り返りを含め、身体拘束についての勉強会を重ねていく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中はカギをかけていない。 センサー音を聞き落とさず、思いの見守りを行っている。 (外部評価) 運営者や職員は鍵をかけないことの大切さを理解しており、居室や日中の玄関に鍵はかかっている。家族から利用者の安全性を懸念して「玄関に鍵を…」との申し出があったが、話し合っって施錠はせずセンサーを設置している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員間で常に声を掛け合い、所在確認を行っている。しかしフロアが広く、死角があり見落としがある。	※	より職員同士が声を掛け合い、所在確認を怠らない。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 包丁・洗剤等、危険チェックリストを作り、使用した後は決められた場所に保管・管理している。	※	危険を素早く察知し、見守る等危険を防ぐ。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 誤嚥、誤薬等、救急・緊急時の対応をマニュアル化し、職員一人ひとりに伝えている。 年2回防災訓練を行っている。	※	事故報告・ヒヤリハットを通し原因・背景を追究し、防止につなげていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルに従い、応急手当等が出来るように講習を行っているが、職員の入れ換わりがあった為全員が訓練出来ていない。	※	職員全員に訓練を実施する。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、各事業所の連携体制・地域の応援体制等、地域運営推進会議で話し合い、災害に対する意識づけは行っている。 (外部評価) 防災マニュアルを作成し、年2回の防火訓練を実施している。訓練では、毛布や担架を使って利用者の避難を行う等の実際的な訓練をしている。3～4日分の食料等の備蓄もしている。いざという時には地元の自主防災会の方が駆けつけてくれる連絡網がある。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 該当する家族には転倒・骨折等のリスクについて話し合いの機会を持ち、今実際出来る工夫を行っている。(スリッパにゴムをつける・誤嚥防止の刻み・トロミ)		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 常日頃より個々の顔色・状態・様子に気をつけ、何らかの異常や変化がみられる時は職員間で申し伝えと共に、医師に報告・相談し適切な指示を仰いでいる。	※	些細な体調の変化を見落とさず、申し送り・記録に残す習慣をつける。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に対する知識・認識が足りない。	※	職員全員が服薬の内容が理解出来るよう、往診担当職員が服薬の内容に変更があった際は随時伝えていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄委員会で便秘予防について学び、粉寒天を使ったり、食物繊維の多い食材を活用する等の工夫をしている。	※	一人ひとりに見合った適切な運動を促し、便秘予防につなげていく。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 職員の意識が低く、声かけ・介助があまり出来ていない。口腔マッサージが必要な利用者にはマニュアルに従って行っている。	※	職員の意識向上の為にチェックシートを作り、必ず1日1回は促せるようにする。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量はチェック表を活用し把握出来ている。補助食品等で栄養バランスはほぼとれている。 (外部評価) 食事・水分摂取量のチェックは常に行っている。栄養バランスやカロリー計算は管理者が保健所で学び、チェックしている。利用者の状態によりミキサー食や刻み食、とろみをつける等の配慮をしている。刻み食は、大きく刻んだ物を利用者の状態に合わせて卓上で更に細かく刻む等の支援をしており、利用者の力量を大事にした介助をしていることがうかがえる。	※	水分量は早めに集計し申し送ることで個々に見合った摂取量を確保する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 利用者・職員共にインフルエンザの予防接種を行っている。その他、マニュアルに従って行っている。また職員は出勤時には必ず手洗い・うがいを行っている。	※	定期的にマニュアル化したものを確認する為の勉強会を行い、発生時には速やかに適切な対応が出来るようにする。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所は常に衛生を心がけている。また、布きんの消毒は毎日行っている。タオルの使い回しは行っていない。	※	いたみやすい食材・賞味期限の早い食材から使い切っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関にベンチ等を置き、周りには植木・プランター等あり親しみやすく、玄関には利用者が作った馴染みの物を置いている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとに装飾品を取り入れているものの、利用者の状態により出来ない時がある為、フロアは殺風景である。時間帯によってブラインド・カーテンの上げ下げをしている。 (外部評価) 玄関には季節の花が活けられ、消毒剤がさりげなく置かれている。居間、台所、浴室、トイレ等は明るくゆったりした空間で、適所に手すりを設置し、清潔感があり、気になる匂いはない。居間にはソファ、炬燵を置き、見やすい時計やカレンダー、絵画、季節の花、雛飾り等があり、温かい雰囲気がある。	※	利用者の状態に合わせ家具や装飾品のレイアウトを変える等の工夫をして、家庭的な雰囲気を作る。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 椅子・ソファ・テーブル・食卓の配置に変化がなく、思い思いに過ごせる工夫が足りない。フロアの広さやフリールームの活用により独りになれる場所はある。	※	ソファ・テーブルの配置を工夫し、気のあった利用者が集える場所を作る。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の協力のもと、使い慣れた家具や装飾品を置いている利用者もいるが、利用者の状態により出来てない場合もある。 (外部評価) 居室は和室と洋室があり、洋室に畳を敷くことも可能である。室内にはベッド、炬燵、書籍、自作の俳句を書いた色紙、家族の写真等、利用者ごとに好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせる部屋になっている。	※	利用者・家族と相談し馴染みの物を取り揃える。趣味や好みの物も取り入れ、居心地の良い居室作りをする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室は利用者が起床後に窓を開け換気している。フロアは閉めばなしの時間が多く、適時換気出来ていない。室温は適時利用者に応じて調節している。	※	脱衣所・浴室の臭いがある為、こまめな換気を心がける。また汚れ物はふたのついた入れ物に収納する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・トイレは広く、段差をなくし、ドアは全て横開きになっている。寝具も安全を考慮し、利用者または家族の希望に応じ、布団・ベッドの何れかを設置している。	※	一人ひとりの身体レベルに応じた手すりを見直していく。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレの戸は赤くして分かりやすくしている。居室の入り口には飾り等を取り付け目印としている。	※	
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダが狭く、また洗濯干し場として使用している為活用出来ていない。畑で野菜が育ち、花壇で花が咲き、暖かい日はお茶会をする等楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の希望、要望を掴んではいるが非情に偏りがある
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	全員ではないが、特に夕食の時間を使い一人ひとりが思いおもいの時間を過ごしたり一緒にお茶を楽しんだりできている (他職員の視点のズレがある)
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	意思決定を促していきながら一人ひとりのペースは守っているが自己決定できない利用者に対しては職員のペースで行なっている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	楽しみ事として、ブーケを作ったり裁縫、パズル、ことわざカルタ、ドリルなど個々に合った物を一緒に取り組んでいる時間を過ごしている時
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	対象者が限られる スタッフの都合などに合わせていることが多く行きたいところへは出かけられていない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	主治医、訪問看護師と医療連携を図り、24時間対応しているため利用者は不安なく過ごせる
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その時の応じる事は緊急ミーティングやケアカンファレンスを通してできているが、利用者全員には至らない 健康状態に合わかゆやとろみなどを使い分けるなど健康と安全に配慮している
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の来訪が頻回にあり、その都度家族の要望等を聴き取り職員に伝えている 家族があまり来られない利用者に対しては一方的な対応しか出来ていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	畑で仕事をしているボランティアとの関係はできているが地域の方が訪ねてくる事はあまりない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民が運営推進会議の回を重ねる度に積極的な姿勢で関わりを深められている
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	人員不足がたたり職員に負担を掛けている 長年働き続けた職員は体力の限界を感じている様子 だが勤務中は笑顔を絶やさず利用者と共に楽しんでいる
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	決して満足できているとは思えない 体調の変化に敏感に対応ができる視点が不足しているが利用者の笑顔も多く見られるようになった
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	来訪してもらえる家族とは気付きや相談、苦情など聴き取り取り組む事はできているが、問題はほとんど義務的にしか来られない家族が満足しているかどうかは分からない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ◎ 排泄委員会、ケア向上委員会など他グループホームと共に勉強会を重ねお互いが刺激し合える関係を作っている
- ◎ 介護理念をベースにコンプライアンスルールを全員で作成し『虐待しない介護』『虐待って何?』を、問いかけている
- ◎ ボランティアの受け入れを積極的に行ない、職員とは違った視点でのケア向上を図っている
- ◎ 畑に野菜を植え、収穫した新鮮な季節野菜を食材にしている
- ◎ 職員がギターを学び、ギターに合わせて利用者や懐メロや童謡を唄っている
- ◎ 季節の行事(梅、桜、菜の花、菊など季節の花見や運動会、夏祭り、お月見、クリスマス、もちつき、盆の法要)を大切にしている

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム 風花

(ユニット名)

風

記入者(管理者)

氏名

長岡 すみ子

評価完了日

平成 19 年 2 月 26 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 一年に一度、理念の見直しを行っている。地域密着型サービスとして、利用者がより良く暮せる為、利用者の思いや姿が反映出来る理念を職員全員で作りに上げている。 (外部評価) 職員全員で話し合っってつくりあげた、身近で分かりやすい理念である。利用者が自分らしく暮らせるよう支援することを念頭に、地域との付き合いを大切にしたい理念で、各ユニットの廊下に掲げている。	※	常に理念を意識し、より一歩でも理念に近づける為出勤時には職員全員が読み上げていく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 常に理念を意識し、より一歩でも近づける様、職員は出勤時に読み上げしたり、ミーティング時に振り返りをしている。 (外部評価) 職員は出勤時に理念を読み上げたり、ミーティング時のふりかえりの視点とする等、常に理念を意識した支援をしている。日々のケアで悩んだりする時は、理念に立ちかえって判断し、実践に繋げるよう心がけている。	※	職員全員が理念を理解し、その実践に向け取り組んでいく。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族会や地域運営推進会議にて説明し、理解と協力をお願いしている。		地域の人々に理解して頂けるように地域風花便りに載せる等していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣近所の方とお会いした時は必ず挨拶を交わす。利用者と回覧板を回したり、公民館に地域風花便りを貼っている。しかし、日常的な関わりは薄い。	※	近隣への散歩や買い物を通して気軽に挨拶を交わし、またおしゃべりの場を増やし顔見知りを増やしていく。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の催し物へ参加している。また運動会や夏祭り、敬老会には地域の方を招いて行い、交流の場を持っている。 (外部評価) 利用者は地域の夏祭り、盆踊り、運動会、老人会等に出かけ、地域の方はホームの行事に気軽に参加してくれる等交流が進んでいる。地元の方は利用者の外出等への気遣いから安全標識を立てたり、雑草を刈ってくれて「何でもしますよ」とホームに声をかけ、温かく見守ってくれている。	※	老人会(寿会)に参加して地域との交流を深めていく。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域運営推進会議を通してグループホームを理解してもらいながら、必要に応じて相談にのっている。	※	地域運営推進会議では話題になるが、今後地域にグループホームがどう関わられるのかを検討する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価・自己反省を常に意識しながら、外部からの適切な評価・視点を今後のグループホームの運営に生かせるものと受け止め、改善に取り組んでいる。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を理解し、職員参加で自己評価を行っている。職員は自己評価が日頃の支援の振り返り、向上心への刺激になると考えている。前回の評価後、自己評価を中心に改善に取り組み、手すりを必要箇所に設置したり、気になる臭いは根源対策に気をつけ換気等に配慮するなど、改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回異なった議題のもと、グループホーム・認知症の理解を伝えると共に、参加者からの意見やアドバイスは真摯に受け止め、サービス向上に努めている。 (外部評価) 会議はホームの概要・実状報告、医療への対処、認知症・成年後見制度等の学習会などを議題として開催しており、会議を通してホームへの理解が深まっている。会議がきっかけで地域の方が玄関先に安全標識を立ててくれたり雑草を刈ってくれる等、会議がサービス向上に繋がっている。ホームから地域に向けて発信しているホーム便りも有効に活用している。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターの開催するセミナーや勉強会に参加している。 (外部評価) 利用者の終末期への対応等について市担当者に相談したり、生活保護の手続きで担当課を訪ねたり、市の依頼で実習を引き受けたり、運営者が市の研修講師を務める等、市との行き来は日常的に行われている。	※	一人でも多くの職員が参加出来るようにしていく。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議にて市職員から成年後見制度について学んだが必要な支援が出来ていない。社内研修でコンプライアンスルールを作成し、ルールに沿った支援が出来るよう取り組んでいる。	※	成年後見人制度が必要な家族への説明・支援が出来る。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングで虐待の内容について学び、職員一人一人が虐待についての意識を高く持ち、虐待を起こさず、また見過ごすことがないよう防止に努めている。	※	コンプライアンスルールを作成し、特に言葉の暴力や拘束ゼロに向けて努める。利用者一人ひとりへの日常の関わりを見直していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングを月1回実施している。運営理念の説明を入社時に管理者より行うが、意見や提案を聞くまでには至っていない。	※	介護理念を職員全員で考え、意見を述べながらひとつにまとめ作り上げている。具体的に1日1日取り組み、成果を評価し、明日へつなげている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に応じ、その都度柔軟に調整している。	※	職員を確保する為に調整は行っているが、人員不足もあり各職員に無理がかかっている。今後は職員育成マニュアルに従い新人職員の育成を計り、利用者に影響が及ばないよう配慮する。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者への影響を第一に考え、移動は最低限としている。 (外部評価) 運営者は、利用者が馴染みの関係の中で支援が受けられるよう、職員の異動を最小限にしている。異動時は利用者の「言葉」や「動き」から各自の思いを知り、ダメージを少なくするよう努めている。	※	各ユニットで経験出来ていない職員も多いため、必要に応じ相互研修していく。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各種勉強会や研修等に職員全員が参加出来る機会を設けている。勤務期間3ヶ月以内で新人研修を行ったり、認知症に関する勉強会等を行いながら、より一層の質の向上を目指している。 (外部評価) 運営者は職員の教育がサービスの質向上や意欲につながると考え、機会毎の学習に力を入れている。職員が外部研修に参加した時は報告書を提出し、他の職員にも伝達している。内部での学習は、月1回のミーティング、同法人他事業所も参加してのケア向上委員会等で行っている。	※	セミナーへの参加を積極的に呼びかけていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 関連ホームでの交換研修を行い交流を深めたり、年に1回相互評価事業に参加し、サービスの質の向上を図っている。見学・研修・実習等の受け入れも行っている。 (外部評価) 他のホームと相互研修会や交流会を持ち、学んだことをサービスの質向上に活かしている。ホームは他ホームからのリーダー研修の実習をはじめ、多くの見学・研修を引き受けている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ストレスを抱えている職員も多く、個々に話を聞いたり、時にアドバイスしている。	※	休憩がとれる勤務体制を整えてゆく為に、安定した職員の確保に努めていく。記録にかかる時間を見直す。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 定期的に個人面談があり、相談したりアドバイスがもらえる。		向上心を持って働き続ける為に、いつでも気軽に話せ、実績・努力も評価出来る場面を作っていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談から利用に至るまでに、本人または家族に出来る限りではあるが聞き取りをしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 自宅に訪問し生活環境を確認しながら、家族や本人の希望等聞き取れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けながら本人の意向も含め、グループホームが適しているのかの検討を行い、他サービスの説明も行っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 初期段階で出来る限り家族に来院して頂き、まず安心を得たうえで職員や利用者と同様の環境を作ったり、グループホームでのデイやショートを利用しながら徐々に馴染めるように工夫している。 (外部評価) 運営者や管理者が入居前に自宅や入院先を訪ねて利用者や顔見知りになったり、前もって同じ建物内のデイサービス等を利用してもらったり、ホームを事前見学してもらおう等で馴染めるよう工夫している。入居後も、家族の来院時に一緒に過ごしてもらってホームの雰囲気に慣れるようにするなど配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 出来る限り一緒に過ごし、本人との会話の中でいろいろな思いを引き出しながら、安心してもらえるように努めている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者の思いを把握し、希望が叶うよう支援している。碁を打ちたい方にはボランティアに相手を依頼し、利用者が収穫した野菜を販売できるよう農協に依頼したり、共にギター演奏を楽しむなどしている。職員は日々の暮らしの中で利用者から調理法、菜園作り、育児等で学ぶことが多いと考えている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時は利用者の近況や様子・状態を伝えたり、意見を仰いだり、要望をたずねている。	※	希薄になっている家族との関係をもう一度見直し、家族への状態報告も含め、こまめな関わりを深めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族より聞き取りをする。家族の思いと、利用者の思いがお互いに分かり合えるよう橋渡しをしている。	※	風花便りや手紙・経過記録等、毎月送付している。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人・場所の聞き取りが十分でなく、支援もあまり出来ていない。	※	家族・本人より聞き取りを行う。また日々の会話の中に出てくる人名・地名を記録し、支援につなげていく。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 日々の生活・関わりの中から関係性の把握に努める。またその関係性を大切にしながら食事時・くつろぎタイム時は時に見守ったり、仲立ちしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要とする家族・利用者が今現在までにいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の5つの視点を使い、本人の言葉や表情・思いをくみ取りながら把握に努めている。 (外部評価) 職員は利用者との会話・言葉から一人ひとりの思いや希望等を把握している。また、ケアを行う上での大切な5つの視点を参考に、利用者の意向を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時また入居後、必要に応じ生活歴・生活環境・サービスの利用内容を家族、介護支援専門員を通し聞き取り出来ている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個人別記録・排泄チェック表・申し送りノート等の記録の活用を通して総合的に把握している。	※	1日1日の気づきや反省も記録に残しながら振り返る機会を持ち、次のウィクリーアクションプランやケアプランの実践へつなげていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式を活用し、利用者の立場・視点・思いに立った計画の作成をチームとして作り上げている。家族へは必ず説明し、意見やアドバイスを仰いでいる。 (外部評価) 利用者毎に担当の職員を決め、担当者を中心に、他の職員も参加してセンター方式で介護計画を立てている。利用者や家族の思いや希望を反映した介護計画となるよう心がけ、計画作成後は家族来訪時等にサインを得ている。	※	利用者の声・思いをもっと聞き取り、具体的にケアに生かしていく。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3か月毎に見直しを行っている。また心身の変化・状態の変化に応じ柔軟に適時見直しを行っている。その場合、家族へは事後報告になっている。 (外部評価) 介護計画は毎日のケアと関連づけながら1週間毎・1か月毎にチェックし、必要時には計画の見直しを行っている。また、利用者の状況が変化した場合はその都度見直している。週や月単位でのチェックで変化がなくても、3か月毎に計画を更新している。	※	家族に相談・報告を行い、計画見直しの際は速やかに伝える。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別記録の記入は出来ているが、気づきや工夫が少ない。	※	日々の気づきや反省もこまめに記録に残すと共に、職員間で情報交換を行いながら見直しに生かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 居宅介護や入浴・福祉用具等同事業所にあり、利用者・家族のその時々要望に応じ支援できている。 (外部評価) 利用者や家族の状況に合わせて、急な受診・法事や結婚式への出席・墓参り・外泊・家族のホームへの宿泊等の柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議をきっかけに地域住民・町内会・民生委員等協力体制を整え、協同している。	※	今以上に地域との関係を深めながら、利用者一人ひとりのニーズに合わせ、生活の幅を広げていく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今のところ、特に必要性がない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在行っていない。	※	本人のニーズに応える為調査を行ない、それをもとに地域運営推進会議などを通し、地域資源を取り入れたケアマネジメントを協同出来るようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望にそいながら、月2回かかりつけ医の往診がある。24時間体制で連絡をとり、相談したり必要な支援を受けている。 (外部評価) 利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の受診支援を行っている。受診で家族が付き添えない時は、同じ建物内のデイサービスの利用者と一緒に受診する等の支援をしている。かかりつけ医による往診も月2回行われている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医ではないが認知症に対して理解の深い医師と連携している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 月4回ほのか看護師の往診があり、個々の健康管理を行いながら、利用者との関係も深められている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した際は入院中の状態確認、また必要な支援を行っている。また病院主治医・かかりつけ医・訪問看護師・家族とケアカンファレンスを行いながら、早期退院に向け取り組んでいる。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時、看取りにおける方針を話し同意してもらいながら、重度化した時は本人・家族・医師・看護師と話し合い方針を決めてゆく。 (外部評価) ホームでの重度化や終末期の対応は可能であり、早い時期から利用者、家族、職員、医師等と話し合っている。看取りのマニュアルがあり、重度化や終末期は家族・職員・医師・訪問看護ステーション等で連携して支援することにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 今後起こりうるリスクやレベルの低下に伴い、必要な利用者の家族へは医師も交え話し合いの場を持っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 実例がない。	※	本人も交えしっかり話し合い、情報交換しながら住み替えによるダメージが軽減出来るように努める。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) コンプライアンスルールに従い、丁寧な言葉がけや対応を心がけている。FAX送信の際等は個人名を伏字にしている。 (外部評価) 利用者との会話や支援場面でも丁寧に接し、地域に発信するホーム便りに掲載する写真は利用者の後姿にする等、一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に支援をしている。記録類や書類の記載・保管は事務室で行い、個人情報の保護に努めている。	※	コンプライアンスルールを作成しているがまだ実践出来ていない部分を見直し、プライバシー確保の徹底を計る。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 選択できる場面や、自己決定出来るよう相談したり、希望を聞く場面を持っている。	※	働きかけや声かけが十分でない為に思いにしっかり耳を傾ける姿勢を持ち、同調する気持ちを大切にしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースや思いをくみ取る声かけや場面作りをしている。個々のペースが違う為、それらに合わせた柔軟な対応が出来ていない。 (外部評価) 食事時間にソファで眠っている方には目覚めてから食べてもらう等、職員は利用者のペースを大切に支援を行っている。利用者の言葉、生活歴、職歴等からその日をどう過ごしたいかを聞いたり察知して、趣味・外出等の支援をしている。	※	一人ひとりゆっくりと向かい合い、思いや希望を聞きだす場面をより多く持ち、職員間で話し合い支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 職員が決めた衣類を着てもらうことが多い。整容を自分で楽しむ利用者は見守り、出来ない利用者には声かけしたり、時に介助している。	※	本人の好み(色やデザイン)の聞き取り、自己決定出来る声かけをする。家族の協力のもと、衣類の補充を行う。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) レベルの低下に伴い、準備・片付けは出来ていない。食事は必ず利用者にとれてるが、楽しみにはつながっていない。 (外部評価) 利用者の希望を献立に取り入れ、自然食材での食事を提供し、一人ひとりの力量に合った支援をし、食卓に花を飾り、食事しながら会話を交わす等、食事を楽しめるよう努めている。ご飯は食べられる量だけ各自がよそうなどしている。	※	準備や片付けは一緒に出来ない決め付けず、声かけをしながら共に行ってみる。食卓の配置を変えたり、座る場所を変えたりしながら楽しい雰囲気を作っていく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物・おやつのおよび嗜好を聞き、支援できている。状況に合わせて家族に依頼したり、職員が購入している。お酒・タバコはすすめていない。	※	おやつ・飲み物の種類を増やし、好みの幅を増やしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個々の排泄パターン・リズムを日々チェックし、それらに応じ声かけ・トイレ誘導を行っている。コストも考えながら、おむつ使用時も適時声かけし誘導している。	※	失敗や理解が難しい利用者にはタイミング良く声かけし・トイレ誘導し、必要に応じ陰洗やおむつ交換を行い、気持ちよく過ごせるよう配慮する。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 天候や体調、また食事時間や観たいテレビの都合に応じ柔軟な声かけをしているが、職員の都合・タイミングで入浴している利用者もいる。 (外部評価) 9時～21時の間で、利用者が希望する時間に入浴できるようになっている。浴室は手すり、滑り止め、バスボード等の安全設備があり、浴槽の湯は利用者毎に入れ替えている。入浴者がいない時は防災用の水を浴槽に貯めている。ホームの浴室で入浴できない場合は、同じ建物内のデイサービスの機械浴を利用している。	※	入浴が楽しめるよう、季節にしょうぶ湯やゆず湯を行なう。時には香りの良い入浴剤等も入れてみる。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は利用者に合わせている。休息は日当たりのいい席をすすめたり、時に自室やフリームに誘導し休んでいただく。タオルケットをかける等、体温調節に気をつけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家事は得意ごとにタオルたたみ・食器拭き等分担して行っている。また、新聞取り・見回り点検・他者への気遣い等、個々の役割も生かしている。 (外部評価) タオルたたみ、食器拭き、菜園づくり、ホームの犬の餌やり、活け花、バッチワーク、読書、俳句、ギター演奏、レクリエーション等の利用者の役割や楽しみごとを支援している。	※	一人ひとりが役割・楽しみ・気晴らしが出来ているかどうかアセスメントしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理出来る利用者には適時補充している。支払い(計算)出来ない利用者には手助けしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天候や体調に配慮しながら希望を聞いているが、個々の思いの達成は出来ていない。食材の買出し・移動パン屋の利用は出来ている。 (外部評価) 1週間に1～2回は食材の買い物でスーパーに行ったり、近くのコンビニ等へ出かけている。店員とも顔なじみになり、買い物の楽しさを味わっている。また、利用者の希望でお花見に出かけたり、神社にお参りに行ったり、地域の行事に参加したりしている。	※	一人ひとりの希望に添い、周辺の散歩・ゴミ捨て・野菜収穫・花摘み等、戸外へ出る機会を持つ。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の協力のもと、墓参りや温泉等出かける機会を作っている。個別に希望があれば、月に1度程度ではあるが外出支援している。	※	一人ひとりの希望を聞き取り、家族の協力を得ながら外出支援する。(外食・コンサート)
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があった時にのみ、手紙の代筆や電話をかけている。	※	職員が必要に応じ家族や知人に電話出来るよう声かけ支援していく。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 来所時は挨拶を交わし、利用者に代わって近況を伝えている。お茶やおやつを出し、居心地良く過ごせるようにしている。現状では家族・親類以外の来所はほとんどない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての勉強会を行い、意味を把握し、危険が及ばない程度に見守り、危ないと感じる時は理由を伝え、気分を害さないよう工夫しながら関わっている。	※	定期的に振り返りを含め、身体拘束についての勉強会を重ねていく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中はカギをかけていない。 センサー音を聞き落とさず、思いの見守りを行っている。 (外部評価) 運営者や職員は鍵をかけないことの大切さを理解しており、居室や日中の玄関に鍵はかかっている。家族から利用者の安全性を懸念して「玄関に鍵を…」との申し出があったが、話し合ってから施錠はせずセンサーを設置している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員間で常に声を掛け合い、所在確認を行っている。しかしフロアが広く、死角があり見落としがある。	※	より職員同士が声を掛け合い、所在確認を怠らない。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 包丁・洗剤等、危険チェックリストを作り、使用した後は決められた場所に保管・管理している。	※	危険を素早く察知し、見守る等危険を防ぐ。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 誤嚥、誤薬等、救急・緊急時の対応をマニュアル化し、職員一人ひとりに伝えている。 年2回防災訓練を行っている。	※	事故報告・ヒヤリハットを通し原因・背景を追究し、防止につなげていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルに従い、応急手当等が出来るように講習を行っているが、職員の入れ換わりがあった為全員が訓練出来ていない。	※	職員全員に訓練を実施する。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、各事業所の連携体制・地域の応援体制等、地域運営推進会議で話し合い、災害に対する意識づけは行っている。 (外部評価) 防災マニュアルを作成し、年2回の防火訓練を実施している。訓練では、毛布や担架を使って利用者の避難を行う等の実際的な訓練をしている。3～4日分の食料等の備蓄もしている。いざという時には地元の自主防災会の方が駆けつけてくれる連絡網がある。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 該当する家族には転倒・骨折等のリスクについて話し合いの機会を持ち、今実際出来る工夫を行っている。(スリッパにゴムをつける・誤嚥防止の刻み・トロミ)		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 常日頃より個々の顔色・状態・様子に気をつけ、何らかの異常や変化がみられる時は職員間で申し伝えと共に、医師に報告・相談し適切な指示を仰いでいる。	※	些細な体調の変化を見落とさず、申し送り・記録に残す習慣をつける。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に対する知識・認識が足りない。	※	職員全員が服薬の内容が理解出来るよう、往診担当職員が服薬の内容に変更があった際は随時伝えていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄委員会で便秘予防について学び、粉寒天を使ったり、食物繊維の多い食材を活用する等の工夫をしている。	※	一人ひとりに見合った適切な運動を促し、便秘予防につなげていく。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 職員の意識が低く、声かけ・介助があまり出来ていない。口腔マッサージが必要な利用者にはマニュアルに従って行っている。	※	職員の意識向上の為にチェックシートを作り、必ず1日1回は促せるようにする。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量はチェック表を活用し把握出来ている。補助食品等で栄養バランスはほぼとれている。 (外部評価) 食事・水分摂取量のチェックは常に行っている。栄養バランスやカロリー計算は管理者が保健所で学び、チェックしている。利用者の状態によりミキサー食や刻み食、とろみをつける等の配慮をしている。刻み食は、大きく刻んだ物を利用者の状態に合わせて卓上で更に細かく刻む等の支援をしており、利用者の力量を大事にした介助をしていることがうかがえる。	※	水分量は早めに集計し申し送ることで個々に見合った摂取量を確保する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 利用者・職員共にインフルエンザの予防接種を行っている。その他、マニュアルに従って行っている。また職員は出勤時には必ず手洗い・うがいを行っている。	※	定期的にマニュアル化したものを確認する為の勉強会を行い、発生時には速やかに適切な対応が出来るようにする。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所は常に衛生を心がけている。また、布きんの消毒は毎日行っている。タオルの使い回しは行っていない。	※	いたみやすい食材・賞味期限の早い食材から使い切っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関にベンチ等を置き、周りには植木・プランター等あり親しみやすく、玄関には利用者が作った馴染みの物を置いている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとに装飾品を取り入れているものの、利用者の状態により出来ない時がある為、フロアは殺風景である。時間帯によってブラインド・カーテンの上げ下げをしている。 (外部評価) 玄関には季節の花が活けられ、消毒剤がさりげなく置かれている。居間、台所、浴室、トイレ等は明るくゆったりした空間で、適所に手すりを設置し、清潔感があり、気になる匂いはない。居間にはソファ、炬燵を置き、見やすい時計やカレンダー、絵画、季節の花、雛飾り等があり、温かい雰囲気がある。	※	利用者の状態に合わせ家具や装飾品のレイアウトを変える等の工夫をして、家庭的な雰囲気を作る。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 椅子・ソファ・テーブル・食卓の配置に変化がなく、思い思いに過ごせる工夫が足りない。フロアの広さやフリールールの活用により独りになれる場所はある。	※	ソファ・テーブルの配置を工夫し、気のあった利用者が集える場所を作る。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の協力のもと、使い慣れた家具や装飾品を置いている利用者もいるが、利用者の状態により出来てない場合もある。 (外部評価) 居室は和室と洋室があり、洋室に畳を敷くことも可能である。室内にはベッド、炬燵、書籍、自作の俳句を書いた色紙、家族の写真等、利用者ごとに好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせる部屋になっている。	※	利用者・家族と相談し馴染みの物を取り揃える。趣味や好みの物も取り入れ、居心地の良い居室作りをする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室は利用者が起床後に窓を開け換気している。フロアは閉めばなしの時間が多く、適時換気出来ていない。室温は適時利用者に応じて調節している。	※	脱衣所・浴室の臭いがある為、こまめな換気を心がける。また汚れ物はふたのついた入れ物に収納する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・トイレは広く、段差をなくし、ドアは全て横開きになっている。寝具も安全を考慮し、利用者または家族の希望に応じ、布団・ベッドの何れかを設置している。	※	一人ひとりの身体レベルに応じた手すりを見直していく。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレの戸は赤くして分かりやすくしている。居室の入り口には飾り等を取り付け目印としている。	※	
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダが狭く、また洗濯干し場として使用している為活用出来ていない。畑で野菜が育ち、花壇で花が咲き、暖かい日はお茶会をする等楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	センター方式の5つの視点を使い利用者の思い等を掴み、ケアプラン・ウィークリーアクションプランに落とし込んでいる。しかし、その時々利用者の思い・願いの変化に応じた臨機応変な対応が出来ていない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	テレビ周りのソファに集い、お茶やおやつを食べたり、時代劇や歌謡ショーを観たりしながらおしゃべりを楽しむ時間を1日数回持っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	フロアや居室またフリールームにて、テレビを観たり、新聞を読んだり、また職員と家事をしながら思い思いに過ごしている。しかし職員の都合で入浴や食事の声かけをしまう事がある。また利用者同士の関係により、居たい所で過ごせなかったり、したい事が出来なかったりする場面がある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	得意な家事の促し・希望に添った外出・ゆっくりと話をする機会等を通して生き生きとした表情を引き出している。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	外出する利用者が決まっている。また出かける場所も同じ所が多い。一人ひとりの希望に添った外出支援、また個別の外出支援の配慮が足りない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者の日々の健康チェック(顔色・表情・バイタル測定)を行っている。また提携医との関係も密にし、往診以外でも気軽に相談できる。中には持病に対する不安や心配を訴える利用者があり、今後の支援の検討が必要である。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者のその時々思いを知る為、言葉・表情・行動の意味や背景をくみ取れるよう職員は努めている。しかし、大声を出し他者を怒鳴る・装飾品を持ち帰る・不安そうな表情を浮かべる等のサインを出す利用者もいる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	家族来所時は必ず共に腰かけ、ゆっくりと話す機会を設けている。利用者の近況・状況を伝えると共に、体調の変化に伴う相談や、思いや願いに対する今後の支援の仕方等についても話し合う機会を持っている。しかし来所の少ない家族とはあまり話し合う機会が取れていない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	行事を通じての来所はあるが、それ以外ではほとんどない。ボランティアの方が(日舞)定期的に訪ねてくれる機会はある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議が回を増すごとに活発になり、グループホーム・認知症に対する理解も増してきている。また運動会・夏祭り等の行事を通して地域住民との交流も増えている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員不足による勤務状況の厳しさもあり、ストレスを抱えている職員も多い。しかし職員一人ひとり仕事に対する意欲、利用者への思いを持って望んでいる。社内研修(ケア向上委員会)等を通じた関連ホームの職員との交流が仕事への刺激になっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事の内容・外出内容・職員の態度や口調に対する不満を訴える利用者がいる。また反対に「ありがたい」と、安心した表情を浮かべる利用者もいる。職員の実労経験が浅いこともあり、まず認知症に対する理解を深めなければいけない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族来所時は家族の立場に立ち、親身に話を聞いたり、相談を受けることで少しずつ信頼関係が出来つつある。また行事時には積極的に参加し、手伝って下さる家族もいる。しかし職員全員の名前が分からず、話かけられなかったり、言いたい事が言えずじまいになったという声も聞かれる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ① 利用者一人ひとりの思いや願いに少しでも気づけるよう、表情や視線、仕草や発した言葉ひとつひとつを大切に受け止め、また職員間で申し送り共有出来るよう心がけている。
- ② 風花が利用者にとって、心から安らげ、安心して暮せる家になるよう、職員がいつも笑顔で明るい雰囲気の中で接するよう心がけている。
- ③ 家事や団欒のひと時を利用者と共に過ごし、家庭的な温かい雰囲気作りを心がけている。
- ④ 利用者のフロア外へ出たい思いをしっかりと受け止めながら、決して呼び止めたり、阻止したりしないよう、気の晴れるまで見守るように心がけている。
- ⑤ 昨年指摘のあった臭気のもりについて、換気を心がけ、臭気のもとをたつよう心がけている。
- ⑥ 現状に満足するのではなく、常に問題意識・向上心を持って仕事に取り組み、研修会・勉強会には積極的に参加するよう心がけている。